



エコマークアワード 2017 受賞団体・評価コメント

EXCELLENCE PRIZE FOR PUBLIC SECTOR

優秀賞 公共部門

横浜市

環境配慮型商品調達率100%に向けた横浜市の取組

横浜市は、市内で最大級の温室効果ガス排出事業者である市役所の消費行動の影響力を重視し、環境配慮商品の調達を積極的に進めており、エコマーク等の環境ラベルを活用しながら、ほぼ100%という高いグリーン購入調達率を達成している。この調達率を達成するため、調達実績の調査・公表や、規模の大きい自治体の課題である職員への周知にあたり、庁内にてeラーニング研修の仕組みを導入し、グリーン購入法に適合した商品の探し方が簡単に学べる環境を整備するなど、他の範となる創意工夫を凝らしている。また同市はオフィス街、里山、臨海地域、歴史的景観などの地域資源を有し、都市部の自治体ながら生物多様性の保全にも力を入れるなど、総合的な環境施策としても先導的であることが高く評価された。

PRODUCT OF THE YEAR

プロダクト・オブ・ザ・イヤー

日本生活協同組合連合会

CO・OPセフター E [認定番号: 16 140 005]

CO・OPセフター漂白剤入り [認定番号: 16 140 006]

CO・OPコーヒーバッグ [認定番号: 17 140 004]

CO・OPコーヒーバッグ [認定番号: 17 140 005]

CO・OPレギュラーコーヒー [認定番号: 17 140 006]

CO・OP有機栽培コーヒーバッグ [認定番号: 17 140 008]

(再生プラスチックを使用したプラスチック製容器包装)

CO・OP 味わい豊かなインスタントコーヒー [認定番号: 17 140 001]

CO・OPコーヒーバッグ [認定番号: 17 140 002]

CO・OPレギュラーコーヒー [認定番号: 17 140 003]

CO・OP有機栽培レギュラーコーヒー [認定番号: 17 140 007]

(植物由来プラスチックを使用したプラスチック製容器包装)



[認定番号: 16 140 005]



[認定番号: 17 140 001]

消費者が日常的に購入する洗剤や食品の分野では、スタンディングパウチと呼ばれる容器が普及しており、詰め替えタイプは多くのエコマーク認定商品が販売されている。今回、プロダクト・オブ・ザ・イヤーに選ばれたCO・OPの洗剤やコーヒー等の容器は、包装材料を素材から見直し、最新の環境配慮素材である植物由来プラスチックまたは再生プラスチックをフィルム層に積極的に採用している。プラスチック生産量の約2割が包装用フィルムシートであることを考えると、一つ一つの包装は小さいが、これが広く普及することで大きな環境負荷低減効果が期待される。さらに、認定商品の中にはライフサイクル全体における温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して見える化したカーボンフットプリントを表示したものや、中身のコーヒー等有機栽培やレインフォレスト・アライアンスの認証を受けているものもあり、総合的な環境性能が際立っている。

ECO MARK AWARD 2017 エコマークアワード 2017

エコマークアワードは、公益財団法人日本環境協会が2010年度に創設した表彰制度です。

エコマーク商品をはじめとする環境配慮商品(以下、エコマーク商品等)の普及に関する優れた事例を広く公表するとともに、エコマーク商品等のより一層の普及拡大を通じて、持続可能な社会の実現に寄与することを目的としています。

2018年1月22日

JAPAN ENVIRONMENT ASSOCIATION
公益財団法人日本環境協会



エコマークアワード賞状



エコマークアワード
受賞ロゴ

「エコマークアワード」トロフィデザインについて

蛍光管の再生ガラスで作られたリングによって「人々の叡智による循環」というテーマを表現。受賞された企業や団体、そして全ての関係者が、より積極的な活動を続けるためのシンボルになることを願ってデザインされています。

賞状・トロフィデザイン: GKグラフィックス 木村雅彦氏



エコマークアワードトロフィ



エコマークアワード 2017ウェブサイト:
<https://www.ecomark.jp/award/2017>

公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9階
Tel: 03-5643-6255 Email: info@ecomark.jp

「エコマークアワード 2017」選考委員長 講評

第8回目となる今回は、最優秀賞1団体、優秀賞4団体、そしてプロダクト・オブ・ザ・イヤーには1団体（10商品）が選ばれました。

受賞された団体はいずれも、独創的かつ多様な取組みが印象的で、かつ、長年にわたり継続的にエコマークを活用したコミュニケーションを展開しています。業界に先駆けて環境配慮に取り組んでいる点や、消費者のニーズに応えながら新しい商品や技術の開発を積極的に行っている点も高く評価されました。商品の環境配慮のみならず、従業員やスタッフに学習する機会と情報の共有を行い、組織全体として意識の向上に取り組む団体が多かったのも今年の特徴でした。子ども達への啓発を重視する素晴らしい取組みもありました。持続可能な社会の実現には組織（従業員）と消費者との協業が不可欠です。その啓発と強化にエコマークを活用されることを期待しています。



筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 教授 西尾チヅル氏

「エコマークアワード 2017」選考委員のご紹介

伊坪 徳宏	東京都市大学 環境学部 教授	山口 庸子	共立女子短期大学 生活科学科 教授
奥山 祐矢	環境省 大臣官房 環境経済課長	山崎 和雄	日本環境ジャーナリストの会 理事
奈良 松範	東京大学 工学部 客員研究員	坂本 清隆	公益財団法人日本環境協会 エコマーク事業部長
西尾 チヅル	筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 教授		

表彰部門

最優秀賞

概要	最優秀賞を受賞した企業、団体の中から最も優れた取り組みを表彰
選考方法	各部門の優秀賞を決定後、「エコマークアワード選考委員会」が選考

優秀賞

概要	「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に大きく寄与する取り組みをした企業・団体等を表彰
対象	以下のいずれかに該当する企業、団体からの公募、または選考委員会による推薦 A. エコマーク認定商品保有企業（エコマーク使用契約者） B. エコマーク商品等の普及に貢献している企業、団体
募集期間	2017年6月15日～8月14日
選考方法	応募または推薦のあった団体の中から、「エコマークアワード選考委員会」が選考 1) 一次審査 エントリーシート（団体PR文（800字以内））による書類審査 2) 本審査 一次審査通過団体に対して最終審査を行い、受賞者を決定
評価ポイント	以下の各項目に照らして総合的に優れた団体、またはいずれかの項目において特に秀でた実績を残した団体を表彰 ● エコマーク商品等の認知度向上への取り組み ● エコマーク商品等の普及への永年にわたる貢献 ● エコマーク商品等の市場普及推進への取り組み ● エコマーク商品等における技術開発の革新性、継続性 ● エコマーク商品等の普及への取り組みの独自性 ● エコマーク商品等による環境負荷低減効果

プロダクト・オブ・ザ・イヤー

概要	特に環境性能や先進性、エコフレンドリーデザインなどに優れた商品を表彰
対象	2016年度、2017年度に認定された全てのエコマーク認定商品 ※公募なし
選考方法	対象となるエコマーク商品から評価ポイントおよび認定基準への適合状況等を勘案し、「エコマークアワード選考委員会」で評価を行い選考
評価ポイント	● エコマークの4つの重点領域「省資源と資源循環」「地球温暖化の防止」「有害物質の制限とコントロール」「生物多様性の保全」のいずれか1つ以上に大きく寄与するもの ● その製品を使用することにより消費者の環境意識の向上、又は環境教育へのつながりが期待されるもの ● 消費者の購買行動を環境に配慮したものへと誘導することが期待されるもの ● 先導的な技術または取り組みであり、他の企業・団体等への波及効果が期待されるもの



エコマークアワード 2017

受賞団体・評価コメント

GRAND PRIZE

最優秀賞

ミドリ安全株式会社

より安全、より安心な地球環境へ。

ミドリ安全株式会社は、社是の「安全・健康・快適職場への奉仕」のもと、1996年にエコマーク認定を初めて取得。以来、会社をあげてエコマークの活用を推進している。また、作業着・安全靴等の設計に環境配慮の視点をいち早く取り入れ、業界を牽引してきた功績は非常に大きい。その取り組みの一つとして、業界に先駆けてエコレザーを使用した革製安全靴や、植物由来合成繊維を使用した作業着や作業手袋などで第一号認定を取得している。さらには使用済み製品の回収・リサイクルシステムを構築するなど、自社が製造・販売する製品のライフサイクルを通じた環境への取り組みを進める企業姿勢は、他の範となるものである。同社が700を超える品番で認定を取得している制服・作業服は、肩部にエコマークを象徴的に表示するなど、消費者が職場や外出先でエコマークを目にする機会を創出している点も高く評価された。

EXCELLENCE PRIZE

優秀賞

株式会社京急百貨店

お客様と一緒に取り組む環境配慮活動を目指して

京急百貨店は、2009年より地域の水源林を守る活動に取り組むなどCSR活動を推進し、2013年には百貨店として初めてのエコマーク認定を取得した。1年間に回収した牛乳パックに相当する分を積み上げたタワーオブジェにエコマークをつけて店頭に表示するなど、消費者の協力が実を結んだことを視覚的に感じることのできるイベントや、電車の中吊り広告、ニュースリリースまたは名刺等でのエコマークを活用した環境コミュニケーションは独創性にあふれている。また、消費者が百貨店に求める洗練された売場や品揃えと、使用済み衣服の回収など百貨店の特性を活かした取り組みをうまく両立させている点は、同業他社だけでなく、他業種においても学ぶべき点が多い。お客様からは見えないバックヤードでの廃棄物削減やリサイクル、LED照明、EV商用車などの環境配慮も行き届いており、環境活動に対する従業員のモチベーションの高さがうかがえる。

帝金株式会社

エコマーク商品等における技術開発の革新性

車止めボールの専業メーカーである帝金株式会社は、金属製が主流であった車止めボールを再生プラスチックで製造し、2002年にエコマーク認定を取得。以後、15年間という長年にわたりエコマーク認定を継続している。街路という公共空間に設置されるエコバリアカー本体にはエコマークが表示されており、子どもからお年寄りまで、歩行者へのエコマーク認知度向上に大きく貢献している。プラスチック部分に再生プラスチックを使用しており、本製品が自治体等を中心に広く普及していくことで、大きな環境負荷低減効果が期待される。また、折れ曲がっても復元する「硬さ」と「しなり」の実現や、高い耐候性など、製品開発における技術革新と努力の点でも高い評価を得た。

株式会社トンボ鉛筆

エコマーク商品の継続的な販売

株式会社トンボ鉛筆は、大正2年の創業以来、学童文具をはじめ、筆記具、修正具、のりなど幅広い商品分野で環境対応製品を積極的に展開している。1992年に、従来は捨てられていた木材の端材を“フィンガージョイント技術”により繋げて再利用した鉛筆ではじめてエコマークを取得。以来、永年にわたりエコマーク取得を継続している。文具という小さく、大幅な改変の難しい分野において、地道な製品開発によって環境配慮の可能性を広げようとしてきた努力は素晴らしい。環境配慮商品をまとめた商品カタログを製作するなど、環境を重視したマーケティング手法にも独自性がある。環境情報を発信する子ども向けウェブページ（トンボKIDS）の公開や、環境出張授業の実施など、次世代に向けた情報発信を展開している点も高く評価された。